

デジタルインボイス活用 岐阜モデル構築実証事業

[WG名]

岐阜県デジタルインボイスデータ活用推進WG

[幹事企業名]

(株)ミライコミュニケーションネットワーク

[WGメンバー]

(株)デリカスイト、(株)大垣共立銀行

01

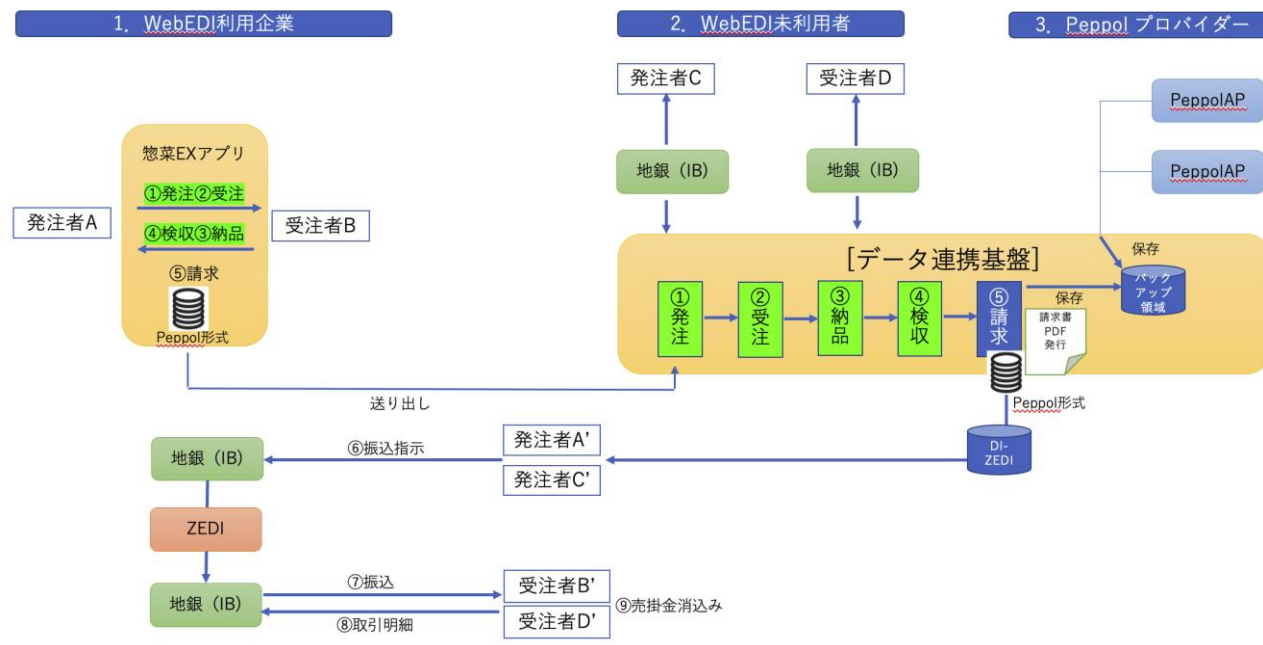
事業概要及びその成果

EDIシステムの利用の有無に関わらず、県内企業が、「受発注」から「入金消込」までの一連の業務をデジタル化することによって業務効率化を図る事を目的として、データ連携基盤の構築および実証を行う。これにより6割程度の時間的業務効率化が確認できた。また、請求書送受信にデジタルインボイス日本標準仕様を採用している。将来的には金融機関との連携を目指し、検討を行うことができた。

02

実施内容

システムの概要



データ連携基盤を構築し、受発注機能以降をすべて使用する「WebEDI未利用者」、自社利用のWebEDIで生成された受発注データを使用し、請求書発行および送受信を行う。その後、銀行振込データを生成して資金移動、入金確認データを入手してデータによる入金消し込みを実行する。

03

検証項目とその結果

○データ連携基盤利用の定量的効果

単位：秒

EDI未利用者	基盤利用前	基盤利用時	削減率
商流 発注～検収	1,050 売り手180 買い手870	286 売り手105 買い手181	72.7%
請求・金流 送着金・消込	1,355 売り手1290 買い手65	551 売り手296 買い手255	38.2%
合計	2,405	837	65.2%

○データ連携基盤利用可能性・EDIで生成したデータを活用できた。

○データ連携基盤利用の定性的効果（利用者の感想）

- ・相互で同じデータを確認するのでミスが減り記録が残せる
 - ・ペーパーレスが実現できると業務が楽になると感じた
 - ・全工程でデータ活用することで簡単なチェックで済み精神的に楽
- データ連携基盤に搭載している新しい技術

- ・デジタルインボイス日本標準仕様（JP PINT）
- ・DI-ZEDI（インボイス制度に対応する全銀EDIフォーマット）

これらはデータ活用の観点から業務上の課題解決ツールとなりえる

04

今後の展開

- 1) 岐阜県内の中小企業を中心とした企業の方に利用していただけるようシステムを更改し、県内企業の業務改善に役立てる
- 2) デジタルインボイス日本標準仕様のシステムにより、データ連携基盤を利用していない企業とのやりとりも便利になるようにする
- 3) 金融機関との連携を進め、二重登録や目視確認を減らし、企業の各担当者の方の負担とミスを減らせるようなシステムを目指す